

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和5年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立上九沢身体障害者デイサービスセンター
指定管理者名	社会福祉法人県央福祉会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで（5年間）
施設設置条例	相模原市立身体障害者デイサービスセンター条例
施設の設置目的	在宅の身体障害者及びその介護を行う者に対し、通所による機能訓練、創作的活動、介護方法の指導等の各種のサービスを提供することによって、身体障害者の自立と社会参加を促進し、もって、身体障害者の福祉の増進に寄与する。（条例第2条） ※ 障害福祉サービス事業（生活介護）を実施。
施設概要	開館時間：午前8時30分から午後5時まで 休館日：日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日までの日 年間開所日数：292人 延床面積：721.44㎡ 主な施設：食堂、作業・日常訓練室、休憩室、健康管理室・相談室、浴室（一般、機械）、脱衣室、トイレ、厨房、事務室、湯沸室、倉庫、機械室
施設所管課	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計（人）	5,269	5,652	5,649	5,209	5,584	5,639	5,027
自立支援給付費（円）	106,056,361	115,590,000	115,994,377	108,948,564	112,618,658	114,846,940	107,126,240
利用者負担金（円）	1,734,988	2,106,252 （※112,268）	101,177	95,040	99,173	208,719	226,854
収入総額（円）	110,407,671	120,283,033	121,291,538	113,390,631	117,588,958	120,668,340	116,359,332
支出総額（円）	110,582,018	122,088,494	110,736,784	107,696,359	111,262,224	120,702,759	111,585,500

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	達成度が98.9%のため、評価基準に基づきB評価となった。利用者数はコロナ禍以降順調に増加していたが、令和5年度は大幅に減少にし、過去5年で初めて実績値が目標値を下回った。看護師等の有資格者を、国の基準を超えて配置していることをはじめ、利用者が安心して利用できる環境づくりを行うなど、質の高い支援が継続できている点については評価できる。今後は更なる通所者数の増加のため、利用者ニーズの変化等に対応しながら、引き続き質の高い支援を継続いただきたい。

指標1

指標名（単位）	開所日1日当たりの平均通所者数 単位：人
指標式と指標の説明	施設を利用し、機能訓練、創作活動等のサービスの提供を受けることにより、身体障害者の福祉の増進が図られるため、1日当たりの平均通所者数（年間通所者数÷開所日数）を成果指標とする。

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（単位）	16.5	17.0	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5
実績値（単位）	18.0	19.3	19.3	17.8	19.1	19.3	17.3
達成度（%）	109.1%	113.5%	110.1%	101.7%	109.1%	110.3%	98.9%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	達成度は125%であり、評価基準により「S評価」とする。 利用者の平均障害支援区分は、5.4であり、重度の障害者に対応するため、毎日看護師を基準以上に配置している。また、日中の支援プログラムはコロナ禍の影響を受けながらも、状況に応じた支援を行い、食事提供では個々の特性に応じた特別食の提供するなど、利用者の意向に沿った支援を行っている。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
生活介護の業務	通年	○通所される利用者への日常生活上への活動支援 ・利用者の平均障害支援区分は、5.4 ・医療的ケア対応のため、看護師を常時2～3名配置 ○外出プログラム ・希望者に対し、施設近隣への買い物、ホームセンターへの買い物など外出機会の確保。 ○季節に合わせたプログラムの実施 感染予防対策を施したうえで、夏祭りやクリスマス会等を実施。創作活動や散歩など通常日課の範囲内・規模で実施。各曜日で月に1回程度。	◎
入浴サービス	通年	開所日に、入浴希望の利用者へのサービス提供。	○
食事の提供	通年	嚥下障がいなどの自力での食事が困難な利用者への支援。 個々の特性に応じた特別食の提供。	◎
送迎サービス	通年	行きと帰りのご自宅まで送迎サービスの実施。	○

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし			

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	満足度は昨年度から上昇している。利用者満足度調査の自由記述の改善意見等を基に、今後のより良い支援に生かしていただきたい。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	施設の利用者を対象とした満足度調査 実施期間：令和5年11月27日～ 12月 23日
目標値の基準	6段階評価のうち、有効回答数中で「とても満足」「満足」「やや満足」と回答した人の割合の合

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	91.1	91.7	92.3	92.9	93.5	94.1	94.7
実績値（％）	91.0	92.8	92.2	92.8	94.9	90.2	92.0
達成度（％）	99.9%	101.2%	99.9%	99.9%	101.5%	95.9%	97.1%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
福祉オンブズマンの来訪	月1回	相模原福祉オンブズマンが来所し、希望する利用者と一人ずつ面談を行う。福祉オンブズマンは、利用者から聞いた意見を施設側に伝え、施設側は利用者の意見を支援等に反映している。
トランスフィットネス	月1回	車椅子や座位の状態でも行える軽度の運動を音楽と一緒にを行い、身体機能の低下防止につなげる。
創作的活動	月2回	外部講師をまねき、季節に合わせた創作活動やアート作品を工作する場を提供

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	令和6年3月期の決算書に基づき団体の賃借対照表、事業活動内訳表及び資金収支計算書の分析、並びに各種の経営指標（収益性、安定性等）分析を行った結果、団体の経営状況について、現時点において特段の懸念はないものとする。 令和6年3月期は、障害福祉サービス等事業収益、保育事業収益の増加に伴いサービス活動収益は増加した一方で人件費等の負担増加により原価率も上昇した。これにより、サービス活動増減差額、経常増減差額は前期に続き黒字決算であったものの、前期と比較して、その黒字額は減少し収益性は若干悪化した。しかしながら、依然として、サービス活動増減差額率及び経常増減差額率は社会福祉法人の全国平均を上回っていることを鑑みると、現時点では収益性の面で大きな懸念はないものとする。 また、賃借対照表上、主に設備資金のための借入金が大きく計上されており、そのため借入金比率はかなり高いものの、事業活動収支差額により借入金の返済資金を賄えていること、また、手許資金も大きく流動比率も100%は超えていることを考慮すると、現時点では、安定性・継続性の面についても大きな懸念はないものとする。

施設の収支概要		※直近3年間について記載		(千円)
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入 (a)		117,589	120,668	116,359
	自立支援給付費	94,679	96,868	87,189
	利用者負担金	99	209	227
	その他の収入	22,811	23,591	28,943
支出 (b)		111,262	120,703	111,586
	人件費	73,939	82,569	73,176
	本社管理経費	4,434	3,288	3,882
	その他の支出	32,889	34,846	34,528
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)		6,327	-35	4,773
自主事業収入 (d)		0	0	0
自主事業支出 (e)		0	0	0
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)		0	0	0
全体収支 [(c)+(f)]		6,327	-35	4,773
備考				
団体の財務状況		団体本体の経営状況について特段の問題はない。		

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員が、項目ごとに適正に実施しているかを確認する。
実施時期	令和6年3月29日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	転倒事故が多かった浴室にて床に滑り止めの加工を行うなど事故防止に努めました。
人員配置・地元活用	適正に実施	シルバー人材や緑区ボランティアと連携を行い地域資源の活用に努めた
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	無
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

- ・過去5年で初めて実績目標値を下回りました。コロナが5類に引き下がり、利用者のニーズが外出や就労型や軽作業などへ変化し、他事業所への移行するかたや介護保険に移行されるかた、重度の方は入所されるなど、退所される方も見られました。ニーズ変化への対応力不足を感じました。
- ・利用者からの要望の多い「外出」が実施できない中でも、可能な範囲で近隣への買い物を実施。買い物外出と近場への外出でも日常的にご自身でいけない方が多く、利用者の方々は喜ばれており、地域で生活することのサポートの重要性を再確認しました。
- ・医療行為がある利用者さんも増えている中で看護師の配置などに重点を置き、様々な障がいに対応できるよう体制を整えました。
- ・地域交流を積極的に行うため、ボランティアセンターとの連携、福祉人材実習の受入れや教育課程実習受入れを行い福祉理解の推進に努めました。

10 所管課意見

- ・市内における身体障害者を対象とした生活介護事業所が少ない中、当該施設が担う役割を認識し、障害支援区分の高い方を積極的に受け入れている点について評価する。
- ・職員体制については、看護師等の有資格者を国の基準を超えて配置しているほか、勉強会や研修への参加など、職員の人材育成や支援体制の充実に努めている点も評価できる。
- ・引き続き、利用者のニーズに応えられるよう、満足度調査等を参考に事業の検討を行っていただきたい。

11 選考委員会意見

- ・医療的ケアの対応を積極的にされている点、オンブズマンの活用や実習生受け入れ、外部講師を招いての創作活動などは評価できる。
- ・重度身体障害者の介護・支援の拠点としてより一層重要な役割を期待されていると思うが、職員の努力に敬意を表する。
- ・利用者数はコロナ禍以降順調に増加していたが、令和5年度は大幅に減少にしている。「ニーズ変化への対応力不足を感じた」と自己評価されているが、利用者数の増加に向けて具体的に原因を分析し対策を講じてほしい。
- ・利用者数増加に向けて、ホームページ等でぜひ活動をアピールしていき、また、利用者が安心して利用できるよう心がけていただきたい。
- ・利用者から外出希望が多く出ているようなので、ぜひ実現に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後も人件費を含めて、経費の支出が増加していくことが見込まれるため、事業の継続性を維持するためにも、利用料金収入の増加、支出項目の見直しによる経費の節減等を図り、これまで以上に効率的な経営を目指していただきたい。
- ・指定管理による利益は、指定管理者の努力によるものであるが、公の施設の管理運営業務から生まれたものであり、その一部は自主的や利用者への還元が求められる。これまでも、設備の導入等による還元がされているが、引き続き、施設環境の整備や利用者サービスの充実などに努めていただきたい。
- ・地域交流、障害の理解促進、開かれた施設づくりなどを積極的に進めた点は評価できるため、引き続き地域交流等について取り組んでほしい。

総合評価（自動判定）

A

(75/100)

